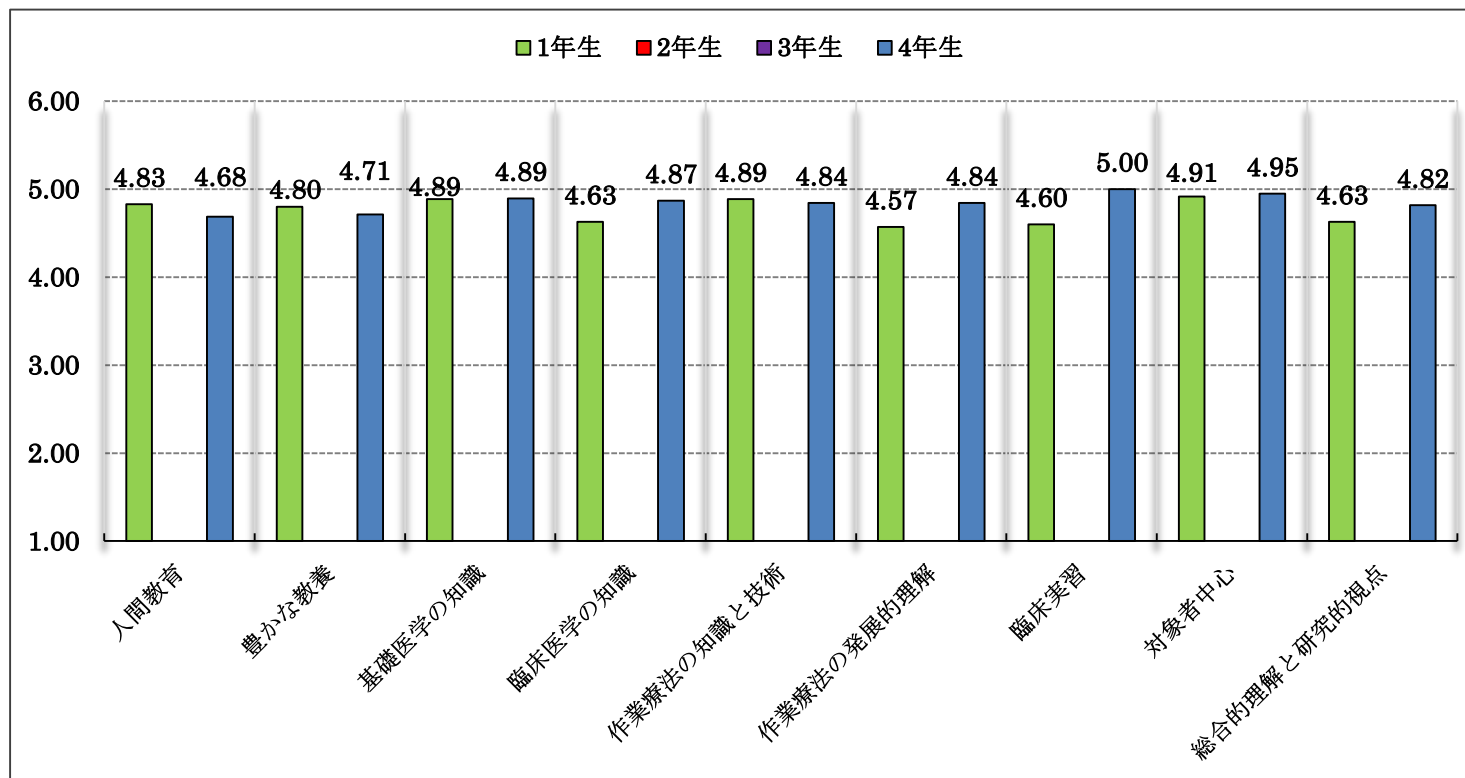


2019年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生 35名（97.2%）、2年生 1名、3年生データなし、4年生 38名（97.4%）。
注）2年生および3年生はデータが得られなかったため、分析から除外した。
- ・全体的な傾向・充足度合：1年生と4年生のデータしか得られず、詳細な分析には至らず。次年度に向けて、確実に回答が得られるよう学生への周知を実施する。1年生と4年生を比較すると、臨床実習を通して実践的な能力の高まりを実感する一方で、患者様や臨床実習指導者との関わりの中で、自己の人間性や教養の不足を実感した結果、1年生と比較しやや低下傾向を示したことが考えられる。
- ・前年度との比較：1年生においては、前年度と大きな差はみられない。4年生では、今年度の学生の方が臨床実習の項目で0.56ポイント高かったが、その他の項目では大きな差はみられなかった（前年度データの表示なし）。



理学療法学専攻

- **分析対象の内訳**：1年生 43名 (93.5%)、2年生データなし、3年生データなし、4年生1名。
注) 2年生および3年生、4年生はデータが得られなかったため、分析から除外した。
- **全体的な傾向・充足度合**：1年生のデータしか得られず、全体的な傾向・充足度合いに関する詳細な分析には至らないが、平均点で 4.64 と中間点の 3.5 を 1.14 ポイント上回っていることから、1年生に適したカリキュラム構成であると推察する。
- **前年度との比較**：前年度の1年生との比較では、8項目の全体的な分布の傾向は同様だが、今年度の学生では平均で 0.45 ポイント高かった。特にコミュニケーション能力と学士力の向上 (+0.60)、応用力の発展 (+0.59) は前年度の学生より高く、基礎力の追求と自分の責任と協調性の項目での差異は少なかった。

